

ギネス
世界記録™

挑戦者たち

vol.11

世界一長い畳

大建工業株式会社岡山工場／岡山県岡山市



ギネス世界記録の公式認定証を手にする（株）ダイタック代表取締役社長の長野智美さん（左）と、大建工業（株）岡山工場工場長の鳥羽亨二さん（右）。

岡山工場の創業60周年を
記念した挑戦

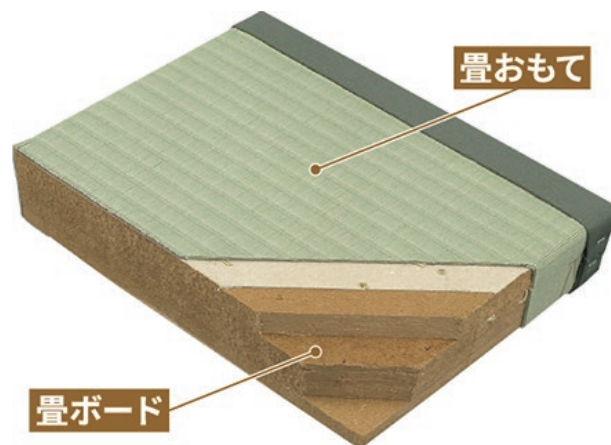
全長11.71メートル、「世界一長い畳」のギネス世界記録を保有しているのは、大建工業（株）岡山工場の従業員たち。挑戦のきっかけは、岡山工場創業60周年の記念イベントを企画するに当たって、若い従業員の間から「みんなで一緒に何かを作りたい」との声が上がったことでした。



ギネス世界記録に認定された全長11.71メートルの畳。現在は岡山工場敷地内にある研究開発拠点「DAIKEN R&Dセンター」3階に展示され、取引先などに公開している（一般には非公開）。

「大建工業は住宅用建材メーカーですが、1958年12月に竣工した岡山工場の主力製品は、木材を繊維状にすりつぶした“畳ボード”です。1996年からは、機械抄きの和紙を使った“畳おもて”も生産しています。畳の材料を作っている岡山工場としては、ぜひ畳でギネス世界記録を目指してみたい、と考えたんです」と話すのは、プロジェクトを主導した岡山工場工場長の鳥羽さんと、(株)ダイタック代表取締役社長の長野さん。

ギネスワールドレコーズ社へのヒアリングを行った結果、目標は長さ11メートルに設定。通常の業務を行いながら、事務局との調整や材料集めなどに奔走する日々が始まりました。



昨今の畳は、ベースに藁ではなく、断熱性や吸湿・放湿にすぐれた畳ボードを使用。その上に、天然のい草だけでなく、和紙を使った畳おもてを被せる。

総勢227名が参加し、1カ月で完成

まず直面したのは、「畳ボードの畳床に畳おもてをどうやって縫い付けるか」という課題です。稲藁で作られた本畳と異なり、木材を繊維状にすりつぶして作られた畳ボードは針を通すことが困難。従業員には手縫いの経験がなく、「記録挑戦は難しいのでは」との声もありました。

しかし、鳥羽さんも長野さんも決して諦めませんでした。「針が通らないなら、千枚通しを使って穴を開ければいい、と思いついたんです。私も畳の手縫いに関しては素人ですが、同じ人間としてできないことはないはず。練習中には何度か、自分の手を刺してしまうこともありましたがね」と笑う鳥羽さん。製作期間を2018年9月10日からの1カ月間に設定し、製作をスタートさせました。

終業後の短時間でスムーズに製作を進めるためには、綿密な準備が欠かせません。「より多くの従業員が積極的に関わることで、そしてケガなく作業を終えることにこだわって、スケジュールを組みました」と長野さん。部署ごとにリーダーを任命し、従業員が毎日少しずつ作業できる体制を整えました。

その結果、総勢227名もの従業員が参加し、10月11日に畳が完成。12月4日には証人や測量士の立ち会いのもとに検証作業が行われ、証明書や報告書の作成、それらの提出などを経て、翌年1月末に無事ギネス世界記録認定の吉報が届きました。



通常、工場で作られている畳床は1畳サイズ。長い畳を作るためにストッパーをはずし、人の手でずらしながら作業を行った。



作業は敷地内にある体育館で実施。終業後に従業員が集まり、畳にひとつずつ穴を開けて糸を通した。

「畳の作り方を理解できた」 ことが何よりの収穫

鳥羽さんと長野さんは、「記録達成よりもうれしかったのは、従業員たちが『畳の作り方や構造が分かって良かった』と言ってくれたこと」と口を揃えます。畳の材料を作る仕事をしていても、それがどのように使われているかは意外と知らないもの。手縫いで畳を作る、という実体験を通して、生きた知識が身につき、従業員同士の一体感も高まったと言います。

かつて、い草生産量日本一を誇っていた岡山県。い草の生産量がゼロになってしまった今でも加工技術の評価は高く、多くの畳関連業種の人々が活躍しています。「残念ながら、畳の需要は年々減る一方です。本畳にも畳ボードにもそれぞれの良さがありますので、もっと多くの人に魅力を伝えていきたいですね」と鳥羽さん。ギネス世界記録を通じて、畳業界と岡山県の産業界が盛り上がることを願っています。



さまざまなカラーの畳が登場。洋室にも使え、暮らしのいろいろなシーンに合わせて選ぶことができる。